

# 高安詰所だより

真の平和世界

第3号  
立教185年  
3月20日



国内でオミクロンの新株が見つかったと大騒ぎしているころ、東欧ウクライナでは戦争が勃発。平和でのどかな町にミサイルが撃ち込まれ、罪のない無数の市民の命が奪われた。その映像はまるで戦争映画のようで、およそ現実のものと思えなかつたが、指導者は核戦争、第三次世界大戦まで言及し、世界はいきなりかつてない危機を迎えた。

一方、収まったかと思えば再び拡大、そしてまた収束、こんなことの繰り返しで疲弊困憊のコロナパンデミック。同時進行の二つの世界的危機には何らかの因果、そして同時に解決の糸口があるように思えてならない。教祖が扉を開いて世界だすけに出られて百三十年を経てもなお、争いの絶えないこの世界。細菌や戦争を通してまで、神様は私達に何を急き込んでおられるのだろうか。

教典第十章に「……真の平和世界は、親神の理によつてのみ築かれる。この親神の道が、正しく治められ、すべてが己が利欲を忘れ、温かい親神の守護の下、互い扶けの真実の働きにつとめ合い、親神の待ち望まれる陽気づくめの世界になる時、この世ながらの限りない生氣溢れる楽土が全うされる……」と記されている通り、人類が「陽気ぐらし世界」を本気で目指さない限り、恒久平和は望めない。世界の平和を心に湛えておたすけに励み、人々をおちばにお連れし、共に「陽気ぐらし世界」を目指す。それこそが「教祖お入り込み百四十周年」を迎えるお互いの、今為すべき使命ではないだろうか。

詰所主任 芦田 孝廣

## 教祖お入り込み百四十周年関連記事

お入り込み記念日まで残り三カ月となりました。6月18日当日は言うまでもなく、7月25日までの記念期間中には大勢の帰参者、宿泊者が見込まれています。詰所ではコロナで2年以上のブランクがありました。が、これまで長年積み重ねてきた経験と実績をフルに活かして、「帰ってくる者を満足させずには一人も帰さん」との教祖の親心を我が心として、真実込めて受け入れさせていただきたいと、感染対策を含め万全の準備を整えて、皆様のお帰りを心待ちにしております。

### ひのきしん風景

エアコン清掃



花壇の手入れ

## オリジナル時計プレゼント

皆さん、お入り込みロゴ入り「詰所オリジナル時計」に気付かれましたでしょうか？ 詰所のロゴ入り「壁掛け時計」がなかなかオシャレと好評を頂いております。そこで記念期間中に詰所の「帰参アンケート」にお答え下さった方々の中から抽選で、このオリジナル時計をプレゼントいたします。この他にも、味噌汁に一匙入れると美味しいと評判の、詰所特製オリジナル「柚子胡椒」もプレゼントいたします。どうぞ楽しみにお帰り下さい。

オリジナル時計



ゆず胡椒

### 詰所行事予定（4月）

- 3日 詰所三区会例会（平安詰所）
- 4日 常会
- 8日 にをいがけ実動
- 12日 勤務者修練Ⅰ（ひのきしん）



- 13日 おつとめ勉強会
- 16日 大教会月次祭参拝
- 17日 直轄祭参拝（大教会）
- 18日 教祖誕生祭参拝者受け入れ
- 19日 婦人会総会帰参者受け入れ
- 20日 勤務者修練Ⅱ（墓地清掃ひのきしん）
- 21日 まち奥様御命日、墓地参拝
- 25日 月例朝礼
- 26日 本部月次祭参拝者受け入れ
- 29日 全教一斉ひのきしんデー

**詰所の動き（3月）**

**にをいがけ実動（3月8日）**

春の訪れを感じる暖かな日差しの下、詰所勤務者一同、今月も元氣一杯に「にをいがけ」に歩かせていただきました。今月は西長柄町。相変わらずお留守や断られることの多い中ではありましたが、インターフォン越しに見えるお庭の梅や桃の蕾に癒され励まされて、皆勇んで御用をつとめさせて頂きました。



**おつとめ勉強会（3月12日）**

回を重ねていくたびに、確実に一人ひとりの手が美しくなり、一手一つに揃うようになっていきます。詰所はお帰り下さる信者の皆さんに安心と寛ぎを提供するところ。お迎えする側の心が各々ばらばらでは十分なおもてなしはできません。おつとめのお稽古を通して、心を一つに睡び合わせ満面の笑顔でお迎えたいと思います。

尚今月のお話当番は、山脇和美奥様でした。



**修養科生（第969期生）集合**

今期（第969期生）の高安の修養科生は、男子4人、女子4人の合計8名です。

皆それぞれに、志願動機は違いますが、いずれもいんねんあつて神様に引き寄せられたことを自覚し、世界たすけのよふぼくを目指して、勇んで修養生活に励んでおられます。





男子教養掛

紀豊崎分教会長

鈴木 眞 先生



女子教養掛

南横須賀分教会長夫人

山本真由美先生

修養科生のお世話取り丹精にお励みいただいています。

移動

高橋和真さん

天理教校専修科を修了され、二年間青年として、詰所にておつとめ下さった高橋一真さんが、3月13日付をもって、詰所での青年づとめを終えられました。

これからは、ヘアースタイルも心機一転おしゃれボウズで一年間の大教会青年づとめをスタートされました。



佃 隆人さん

詰所の学生勤務者として、二年間つとめてくれました、佃 隆人さんが、このたび無事天理高校第二部を卒業、詰所勤務を辞することとなりました。

佃さんは詰所勤務の傍ら、受験勉強にはげまれ、この春見事に天理大学人間学部宗教学科に合格されました。



編修後記

相変わらずコロナに翻弄される日々が続いているが。この二年余りは大方の行事や活動が停止され、これに伴って詰所では殆ど宿泊者がなく、閑古鳥が鳴く冬眠状態だった。しかし、春の訪れとともに、世界が次第に動き始め、詰所にも活気が蘇りつつある。

6月、7月の「お入り込み記念期間」には、全国からの帰参者でごった返し、以前のような賑わいを取り戻していくのだと思うと、わくわくする。おちばがえりを楽しみにお帰り下さる信者の皆さん、お一人おひとりに心から満足していただける詰所を目指し、スタッフ一同、心を引き締め、そして心を込めて、お迎えさせていただきます。



発行 天理教高安大教会信者詰所  
発行者 芦田孝廣  
印刷 天理市守目堂町二五五番地